

① 第17回復興カフェ in Miyakyo (3月9日・月)

ニュージーランド・オークランド大学のCarol Mutch准教授をお招きし、第17回復興カフェ in Miyakyoを開催した。小田特任准教授から教育復興支援センターの概要について説明があった後、震災後の復興状況や被災した子どもたちのケア、防災教育プログラム等、日本とニュージーランド双方の取組みを話し合い、有益な情報・意見交換が行われた。Carol准教授からは、震災に限らず、予期せぬ事態におけるリーダーシップを養成するプログラムを、作成していることなどの報告があった。



② 第3回国連防災世界会議関連事業(3月14日・土～3月18日・水)

第3回国連防災世界会議が仙台市にて開催された。期間中、本学主催の下記イベントが実施された。

- ・1月28日プレイベント ・仙台市民会館やせんだいメディアでのブース展示
- ・仙台広域圏ESD・RCE運営委員会主催「東日本大震災と持続可能な防災シンポジウム」
- ・コミュニケーションスペースにおいて展示やプレゼンテーション
- ・東日本大震災・総合フォーラム
「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開」
- ・復興大学主催パブリックフォーラム ・学生主催の被災地バスツアー



総合フォーラム：パネルディスカッション



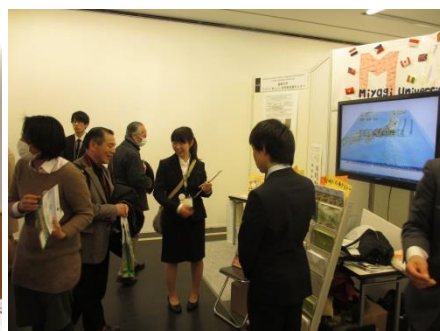
入場者数：1,100名



総合フォーラム：本学学生発表



復興大学：本学学生発表



せんだいメディアテーク：
ブース展示



被災地バスツアー：関上中学校前にて

⑥ 共催：ネパール地震災害緊急報告会 (6月11日・木)

日本地すべり学会、東北地理学会、東北大学災害科学国際研究所、本センター共催の標記報告会『ネパール地震災害調査報告—斜面災害を中心に—』を開催した。八木浩司・山形大学地域教育文化学部教授を講師にお迎えし、5月19日～6月2日に実施したネパール地域の調査をご報告頂いた。会場（東北大学災害科学国際研究所）と本センターをTV会議(右下画像・iPad&携帯電話)にて中継、教職員が参加した。



⑦ 被災地視察ツアー in 気仙沼＆南三陸(6月20日・土)

気仙沼や南三陸出身の学生による被災地視察研修を開催した。東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受け、「震災遺構」としてたびたび取り上げられる“気仙沼向洋高校”や“南三陸町防災対策庁舎”を実際に目にし、参加した学生たちは言葉がでない様子だった。



⑧ 附属3校合同防災訓練(6月29日・月)

本学附属3校園にて「上杉キャンパス合同避難訓練」が実施された。午前10時に震度6の地震発生、小学校給食室より火災発生を想定して避難が開始された。当日PTA役員会があり、保護者たちが見守るなかでの避難訓練であった。教育実習中の本学学生も交えての避難訓練だったため、教職を目指している学生にとって良い経験となった。当センターより教職員が視察、TV会議システムにて本学へ中継した。



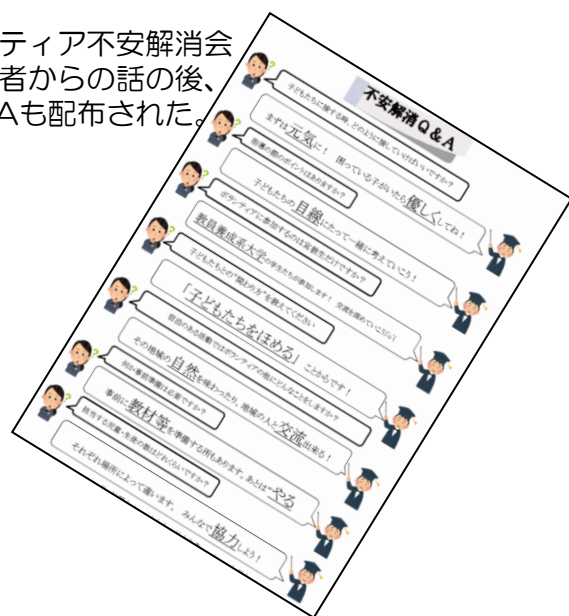
⑨ 第18回復興カフェ in Miyakyo(7月7日・火)

「東日本大震災を伝える」と題した復興カフェが開催され、山形県陵南中学より2年生31名・教員2名を含む45名が参加した。高校1年生が見た震災（首藤大知氏）、被災地の子どもたち（卒業生峯田清人氏）、その時中学生は（伊藤芳郎特任教授）の3人の話題提供があった。中学生たちは復興カフェ終了後、学内見学、萩朋会館にて大学生と一緒に昼食を取った。



⑩ ボランティア不安解消会(7月8日・水)

夏の学習支援ボランティア活動開始にあたって、ボランティア不安解消会が開催された。中井センター長の挨拶、ボランティア経験者からの話の後、当センターからの連絡事項の紹介があった。不安解消Q&Aも配布された。



⑪ 第19回復興カフェ in Miyakyo(7月14日・火)

本学の学部生向け科目「環境と開発」(担当教員・西城潔/小田隆史)の一環として、「福島原発事故後の地域社会の変化と課題」をテーマに実施したフィールド実習の報告をかねた復興カフェが開催された。学生たちは3グループにわかれ一人ずつプレゼンを行った。



③ 第1回ボランティア協力員総会 (4月22日・水)

平成27年度第1回ボランティア協力員総会が開催された。中井センター長挨拶の後、2年生代表の佐々木奏太さんから、これまでの協力員や運営委員の活動紹介があった。その後、昨年11月に実施した石巻・女川方面の被災地視察研修に参加した学生から視察の報告があった。今年で1～4年生のボランティア協力員がそろった。協力員たちは、今後、運営委員を募って様々な活動を実践していく。



④ グリーンウェイブ2015に参加 (5月21日・木)

国連が定める国際生物多様性の日（5月22日）の前日に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行うグリーンウェイブヘンターとして参加した。今年は英語教育講座の先生からご寄付いただいたシャクヤク・ポトスを植樹した。昨年植樹したブルーベリーも元気に育ち実をつけている。



⑤ 南相馬被災地視察研修 (6月6日・土)

南相馬市出身の学生を中心に、企画運営した被災地視察研修を実施、参加者は教職員も含め24名で留学生の参加もあった。小高区は日中の立ち入りが認められているため、駅前でコンサートが開催されていたが、一歩住宅街に足を踏み入ると人影は見られなかった。沿岸部の村上地区では、中間貯蔵施設が整理されてきたためか、津波で破壊された家屋も撤去され、1年前と比べ少なくなっていた。

